資料３

路線等再編に向けた さんさんバス車体のデザイン方法について

項目	路線ごとのデザイン （３デザイン）	全路線統一のデザイン （１デザイン）
前提条件	くろまつくん、さつきちゃんのデザインをそのまま踏襲し、路線ごとの新たなデザインを作成する。	くろまつくん、さつきちゃんのデザインに代わる、全路線統一となる新たなデザインを作成する。
視認性（わかりやすさ①）	○ 路線カラーや沿線の特色などのラッピングを施したデザインとすることができ、どの路線のバスか見分けやすい。	△ さんさんバス以外の路線バスとの区別をつけることは可能となるが、車体からどの路線を走るバスかを見分けることはできない。（マグネットシートでの路線表示を行う。）
統一感（わかりやすさ②）	△ 新路線のデザインを新たに作成した場合、さんさんバス全体としての統一感が薄れる可能性があり、イメージがしにくくなる。	○ 全路線統一となるデザインを作成した場合でも、さんさんバス全体の統一感を持たせることができ、イメージがしやすい。
判別性（わかりやすさ③）	○ 現在のさんさんバスは路線ごとのデザインとしているため、車体から路線を認識しやすく、利用者はこの判別方法を継続できる。	△ 現在のバス車両とは異なるデザインとなるため、利用者は行先に加え、今後は乗車したい路線を方向幕から判別することとなる。
マイバス意識（親しみやすさ）	○ 各路線の特色を持たせることができるため、その路線になじんだデザインが可能となる。	○ 市町村の特徴を活かしたデザインにより、「みよし市のバス」という意識を持つことができる。
汎用性	△ 路線固定の運用となり、他路線での運行ができない。	○ 路線にとらわれない運用が可能となり、他路線での運行が可能となる。
経済性	△ 路線固定の運用となり、バス毎に総走行距離や消耗品などの偏りが生じ、維持管理費に差が出る。	○ 路線にとらわれない運用が可能となり、総走行距離や消耗品を平準化することができる。
現車両への対応	○ 既存車両のデザインをそのまま活用でき、新規購入する車両に新デザインを施す。	△ 既存車両 6 台を新デザインに置き換える必要がある。

＜参考：バス更新の目安＞

【現在】走行距離５０万kmを超えると、エンジンやミッションなど１００万円を超える修理費を必要とする重篤な故障の発生するリスクが高くなるため、更新の基準は走行距離５０万km以上または、６年経過としている。

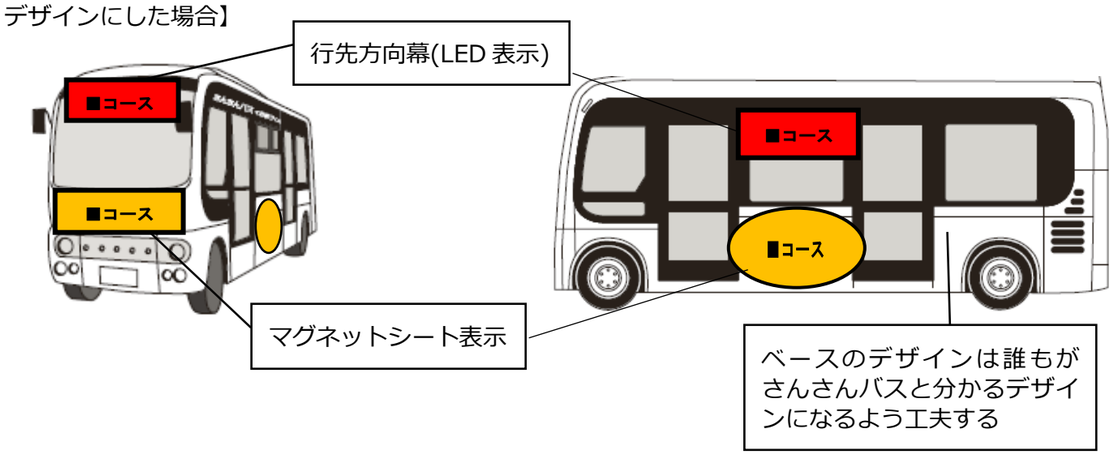
⇒　【今後】これまでの実績等を踏まえ、６０万km以上または、７年経過を目安に見直していく。

【近隣自治体の事例】

東郷町「じゅんかい君」（１デザイン）

半田市「ごんくる」（３デザイン（デザインそのものが３種類））

【１デザインにした場合】



※　新たなデザインは、行先表示のマグネットシートを貼るスペースを考慮して作成する。